

第13回理工学における 同位元素研究発表会

下記の要領で開催されます。発表申込、申込書については、

(113) 東京都文京区本駒込 2-28-45

日本アイソトープ協会内、理工学における同位元素研究発表会運営委員会 TEL (03) 946-7111 (代表) にご連絡下さい。

発表申込締切：昭和 51 年 2 月 28 日 (土) 必着。

講演要旨：要旨集発行のため、発表申込みあり次第、所定の原稿用紙 (1,400 字程度) 送付。

講演要旨原稿締切：昭和 51 年 4 月 15 日 (木) 必着。

発表時間：1 件につき 15 分以内の予定。

発表申込区分：11 区分あり。運営委員会に問合せのこと。

共同主催者：本学会を含めて、48 学協会。

第2回水—岩石相互作用シンポジウム

上記シンポジウムの第1回サーキュラーが送られてきましたので紹介いたします。

会議名 2nd International Symposium on Water—Rock Interaction

開催地 Strasbourg, France

会期 1977 年 8 月 17 日～25 日

会長 Dr. B. HITCHON

事務局長 Dr. Yves TARDY

連絡先 Institut de Geologie, 1, rue Blessig, 67084, Strasbourg, FRANCE

シンポジウムのテーマは

1. Near surface environments
2. Saline environments
3. Elevated-temperature environments
4. Experimental and theoretical models
5. Practical applications and case histories

8 月 17 日から 21 日までストラッブルグでシンポジウムが行なわれ、22 日から 25 日までバスク、アルザス、ロレーヌ、ライン地溝帯の温泉、鉱泉、岩石についての地質巡検がある。第2回サーキュラーの必要な方は第1回サーキュラーの最後の頁にある書類に記入して Dr. TARDY に郵送すると (1976 年 3 月 1 日まで)、1976 年夏頃に郵送されて来る予定です。講演要旨提出期限 1976 年 7 月 1 日、論文提出期限 1977 年初め頃。

この会議は 1974 年 プラハ (チェコスロバキア) で開かれた第1回 WRI 国際シンポジウムに続くものです。

サーキュラーは郵送料節約のためにまとめて小生あてに送られて来ました。サーキュラーあるいは申込書式などが必要な方はご連絡下さい。

神奈川県温泉研究所 大木 靖 衛
TEL 小田原 (0465) 23-3588 (代)

第26回国際純正応用化学連合化学 会議の日本開催 (ご案内)

会期 1977 年 9 月 4 日 (日)～10 日 (土)

会場 東京赤坂地区

発表申込 1977 年 3 月 31 日メ切

First Circular 入手希望者は、返信用封筒 (定形大形 25 円切手貼付) 同封のうえ

〒101-91 東京神田郵便局私書箱 56 号

IUPAC 委員会へ申込みこと。

1. 合同シンポジウム「人類の福祉のための化学」
その他各種シンポジウム

第5回有機地球化学談話会報告

同談話会が地球化学討論会に先がけて 10 月 22 日午後 2 時から 23 日正午まで出席者 44 名のもとに大学セミナーハウスで開催された。

課題“有機物の分解速度”について 3 件、および話題提供 6 件について講演と討論がおこなわれた。

従来、当該談話会の運営は有志によっておこなわれてきたが、一年間の猶予をもって正式に発足させることが席上提案された。その原案作成の世話を東北大理学部田口一雄氏および名古屋大学水研の半田暢彦氏に依頼することになった。

なお名簿の整備を予定しているの、同会に入会を希望する場合はその旨同氏に連絡して下さい。

本会元会員松浦新之助氏 (福岡市) は、1975 年 4 月 6 日に逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

学会事務所 (166) 東京都杉並区高円寺北 4-35-8
気象研究所 地球化学研究部
電話 (03) 337-1111 内線 75
振替口座 東京 38679
日本地球化学会

ニュース (213) 川崎市高津区久本 135
発行所 地質調査所 地球化学課
倉沢 一
田中 剛
電話 (044) 866-3171

日本地球化学会ニュース

No. 76

1976. V. 10

国立国会
51-6-1
図5745

お知らせ

1976年地球化学年会

主催 日本地球化学会

共催 日本化学会

日時 10月14日 (木)
～16日 (土)

会場 名古屋大学教養部
(〒464 名古屋市千種区不老町)

内容 課題討論、特別講演および一般討論

課題討論 1) 現世堆積物の有機地球化学
2) 軽元素の安定同位体の地球化学

特別講演 1) 土壌有機物の地球化学
熊田恭一 (名大・農)
2) 観測宇宙論の現状と将来
早川幸男 (名大・理)

講演申込締切 6月19日 (土)
同封の別紙申込用紙により申し込んで下さい。
講演部門はプログラム編成上変更することがあります。
討論時間は、20分 (一般討論) 以内です。
スライドは、35mmに限りです。

講演要旨原稿締切
講演申込みを受付け次第、オフセット用原稿用紙をお送りいたします。それに黒インクで清書し、下

記にお送り下さい。

要旨は一般討論1200字 (原稿用紙1枚) 以内、
課題討論2400字 (原稿用紙2枚) 以内とします。

講演要旨代および参加費
一般2500円、学生2000円 (前納)
郵送希望者は、送料300円を追加して下さい。

要旨集予約および参加申込締切 8月10日 (火)
要旨集は印刷部数を限定しますので、ご入用の方は参加あるいは講演希望の有無にかかわらず、別紙申込書でお申し込み下さい。

総会 10月15日 (金) 午後
懇親会 10月15日 (金)
18時頃より行う予定 (会費2000円)

申込書、要旨集原稿、予約金送付先
〒464 名古屋市千種区不老町
名古屋大学水圏科学研究所
1976年地球化学会年会実行委員会
電話 052-781-5111
内線 2539, 2541,
2554

申込書に印刷してある宛先用紙をご利用下さい。

12月新旧合同評議員会議事録
と き 1975年12月13日(土) 17時～20時
ところ 学士会館本郷分館

1. 報告
JSC地球化学宇宙化学研連の委員定数は12名となり、本会に5名の推薦が依頼された。
IAGC総会は、1977年パリでひらかれる予定。
極地、編集、将来計画、ニュース、行事、選管、庶務各担当委員の報告があった。
2. 議題
2-1. JSC地球化学宇宙化学研連委員候補者には、得票順に、本田雅健、北野康、三宅泰雄、松尾禎士、小穴進也を推薦することをきめた。地物研連委陸水分科会委員には小山忠四郎を推薦することをきめた。
2-2. 1976年度討論会の準備会が発足。名称、課題討論については継続審議とする。
2-3. 2月例会を日本陸水学会と共催で、湖沼化学について行うことをきめた。
2-4. 1976～77年度会務分担を次のようにきめた。
会 長 小穴 進也 副 会 長 本田 雅健
庶務担当 猿橋 勝子 会計担当 杉浦 吉雄
" 杉村 行勇 編 集 増田 彰正
行 事 岡部 史郎 財 政 鳥居 鉄也
ニュース 山 県 登 将来計画 北野 康
会則検討 本田 雅健 環 境 市川 新
極 地 鳥居 鉄也 監 事 西村 雅吉
2-5. 入会3、退会4を承認、正会員数792名。

- 学術賞および研究助成金の募集
○1976年度学術賞「地球化学研究協会三宅賞」の受賞候補者の推薦。
・地球化学の研究に顕著な業績をおさめた科学者に対し、贈呈される。推薦締切りは1976年9月19日。希望者は募集要項推薦書類がとどいているので、学会事務室に連絡されたい。
○1976年度トヨタ財団研究助成金の募集
・「交通安全・生活・自然環境領域」「社会福祉領域」「教育・文化領域」に関する研究に助成する。応募締切1976年6月25日。応募要領等は、学会事務室に連絡されたい。

IAGC協賛会の解散について
日本は1965年のIAGC(International Association of Geochemistry and Cosmochemistry)発足以来、重要な加盟国としてIAGCの活動に参加してきた。そのためIAGC協賛会という私的団体をつくり、有志のご寄附をあおぎ、加盟金年額、US \$180を支払ってきた。前半は北野、後半は松尾がお世話をした。このたび1974年までの加盟金の支払を完了したので、ここにニュースの紙面をかりて報告する。寄附をうけた金額から所要経費をさしひき、4750円が残った。残額は日本地球化学会へ寄附することにした。ご協力をいただいた多数の方々のご好意に深く感謝すると同時に、寄附の件をご諒承いただきたい。
なお1975年以降の加盟会は、国家予算によって支払われるので、IAGC協賛会の存在理由は消滅したと考えられる。重ねてご協力をいただいた方々に感謝するとともに、協賛会の解散を報告する。
(北野 康、松尾禎士)
関連学会等の開催予定

学 会 名	月 日	場 所
第13回理工学における同位元素研究発表会	6.29～7.1	国立教育会館
日本温泉学会	7.20～21	松本浅間温泉
南極地球化学シンポジウム	7.28～29	東京学士会館
日本化学会秋季年会	8.28～31	札幌
連合討論会		
日本放射線影響学会	10.8～9	広島
日本海洋学会秋季大会	10.10～11	清水東海大学
日本分析学会年会	10.10～14	新潟
日本火山学会	10.15～17	福岡
日本岩鉱学会	10.19～21	鹿児島
日本気象学会	10.21～23	名古屋

編集者 山 県 登
発行所 日本地球化学会
〒166 東京都杉並区高円寺北4-35-8
気象研究所 地球化学研究部内
電話 (03) 337-1111 内線75
振替口座 東京8-38679

日本地球化学会ニュース

No. 77
1976. VIII. 10

1976年度日本地球化学会年会

主催 日本地球化学会 後援 日本化学会
日時 1976年10月14日(木)～10月16日(土)
会場 名古屋大学教養部(一階) (052-781-5111)
名古屋市千種区不老町

日 程 表

	1000	1100	1200	1300	1400	1500	1600	1700	1800	1900	2000
14 日 (木)	受付	A 一般講演 B 一般講演 C 一般講演			A 課題討論(有機) B 一般講演 C 課題討論(同位体)				A会場 物理講義室 B会場 化学講義室 C会場 第5講義室		
15 日 (金)		A 一般講演 B 一般講演 C 一般講演			A 一般講演 B 一般講演 C 一般講演	特別講演 A	総 会 A		懇 親 会 食 堂		
16 日 (土)		A 一般講演 B 一般講演 C 一般講演			A 一般講演 B 一般講演 C 一般講演			控室 12番、13番教室 年会事務局 14番教室			

特 別 講 演 10月15日(金) 14:00～16:00 A会場
座長 田口 一雄
S I 土壌有機物の地球化学 熊田 恭一(名大農)
座長 北野 康
S II 観測宇宙論の現状と将来 早川 幸男(名大理)
総会 10月15日(金) 16:00～17:30 A会場 懇親会 10月15日(金) 18:00～19:30 食堂

会場への交通: 国鉄名古屋駅前から地下鉄東山線で本山駅下車、本山駅から市営バス系統番号63(八事行)、76(名大前行)および84(平針住宅行)で名古屋大学前下車。
夜間小集会の受付: 年会開催中に夜間小集会をもちたい方は、9月15日までに希望する日時とおよその人数を実行委、杉崎隆一宛に申込むこと。
講演時間: 一般講演は、一講演につき討論を含めて15分とする。
年会参加費: 500円(学生無料)
要旨集: 2,000円(送料300円)
懇親会: 2,000円

第1日 10月14日(木)

一般講演 A 会場

[10:00~11:00] 座長 杉村 行勇

A 1 Be-10法による海底堆積物年代
井上照夫, 今村峯雄, 柳田昭平,
*田中重男 (東大核研)

A 2 西太平洋海洋底の年代学
小嶋 稔, 本田勝彦 (東大理)

A 3 日本海コア堆積物中の鉄, マンガン, 硫黄の
分布 増沢敏行 (名大水研)

A 4 堆積物中のセレンについて
*玉利祐三, 平木敏三,
西川泰治 (近畿大理工)

[11:15~12:15] 座長 椎川 誠

A 5 中国地方の中生層頁岩中の微量成分
稲取章正 (香川大教育)

A 6 石狩炭田空知地区の硫黄含量と堆積環境
粕 武 (地 調)

A 7 グリーントフ堆積岩とH⁺の交換反応
水上正勝 (函館工専)

A 8 強酸性湖沼沼の堆積物中の層理について
*佐竹研一 (国立公害研)
西条八束 (名大水研)

課題討論 「現世堆積物の有機地球化学」

[13:30~15:40] コンビナー 半谷 高久
座長 西条 八束

A 9 オホーツク海堆積物中のアミノ酸について
門谷 茂, 米田義昭,
深瀬 茂 (北大水産)

A 10 ステロールの堆積機構の研究 I; ステロール
のモンモリロナイトへの吸着について
小椋和子, 田名部修弘,
塩谷 真 (都立大理)

A 11 初期堆積過程における有機物の変化機構
小山忠四郎 (名大水研)

A 12 現世堆積物のn-パラフィンのCPI と熟成の
問題 米谷 宏 (地 調)

A 13 堆積高分子有機物の生成と変化
石渡良志 (都立大理)

「現世堆積物の有機地球化学の問題点の所在」

[15:45~17:45] パネル討論 司会 半谷 高久
田口一雄 (東北大理), 中西 弘 (山口大工)
半田暢彦 (名大水研), 立川 涼 (愛媛大農)

第1日 10月14日(木)

一般講演 B 会場

[10:00~11:15] 座長 坂野 昇平

B 1 島弧別に見た火山岩のトリウム系とウラン系
の放射能比 佐藤和郎 (東大地震研)
佐藤 純 (東大理)

B 2 南アフリカ, キンバーライト捕獲岩中の希ガ
ス, ⁴⁰Ar/³⁹Ar年代 兼岡一郎 (東大理)
高岡宣雄 (阪大理)
青木謙一郎 (東北大理)

B 3 ヒマラヤ地域花崗岩のRb-Sr年代
能田 成 (京産大), 甲斐邦男 (京大理)

B 4 超塩基性岩中の鉛同位体比
森岡正名 (東大アイソトープセンター)

B 5 北上山地宮古花崗岩の同位体年代
柴田 賢(地調), 柳 喆, 浜本礼子(九大理)

[11:15~12:30] 座長 松井 義人

B 6 小笠原群島における微量元素の分布
谷塚良之, 永塚澄子 (都立アイソトープ研)

B 7 スンダ列島の火山の微量成分
西村 進, 池田 隆 (京大教養)
笹島貞雄 (京大理)

B 8 東北, 八幡平火山岩の微量元素-カルクアル
カリ岩の成因について
増田康之 (大阪府大教養)
青木謙一郎 (東北大理)

B 9 モデル系Di-An-Abにおける微量元素の分化
坂野昇平, 山崎正男 (金沢大理)

B 10 真空中における珪酸塩岩石の蒸発に伴う元素
の分別について *田中 剛 (地 調)
増田彰正 (神戸大理)

[13:30~14:15] 座長 渡久山 章

B 11 炭酸カルシウムの結晶晶出におよぼす亜鉛,
銅の影響 北野 康, 金森暢子(名大水研)
*吉岡小夜子 (愛教大)

B 12 炭酸カルシウムの生成におよぼすカドミウム
錯体の影響 北野 康, 金森暢子, *黒沢亮子 (名大水研)

B 13 過飽和度の増大による分配係数の減少-カル
サイト固溶体と水溶液との間のMg²⁺および,
Sr²⁺の分配を例として
*石神 工 (東北大理)
一國雅己 (東北大教養)

[14:15~15:15] 座長 藤貫 正

B 14 炭酸カルシウムによるリン酸の共沈澱 (その
2) 北野 康 (名大水研)
*奥村 稔, 井戸垣正俊 (島根大文理)

B 15 深海底堆積物中の炭酸塩溶解量の測定法
*大場忠道 (東大海洋研) T.L.Ku (南加大)

B 16 南大東島にみられるプロトドロマイト・セメ
ント *大出 茂 (名大水研)
太田直一 (都立大理)
戸村健児 (立教大原研)

B 17 海成炭酸塩の晶出について
大森 保 (琉球大理工)

[15:30~16:30] 座長 赤岩 英夫

B 18 貝殻のMn(II) EPR スペクトルの禁制帯強度
とMg含量との関係 *阿部修治 (農工大工)
藤貫 正 (地調), 藤原鎮男 (東大理)

B 19 天然産炭酸塩物質中におけるMgの存在状態
渡久山 章 (琉球大理工)

B 20 サンゴのIoによる年代測定における酸洗浄の
際に生ずるTh, Vの再吸着について
満田 伯 (学習院大理)

B 21 続成過程のシミュレーション・モデル: 無節
サンゴモを例として, I
三井さち子 (広島大理)

[16:30~17:15] 座長 阿部 修治

B 22 岐阜県下に分布する炭酸塩岩のフッ素含量
赤岩英夫, *沼沢省一 (群馬大工)

B 23 高知県佐川町高嶺石灰岩の地球化学的研究
*藤貫 正, 五十嵐俊雄 (地調)
細越千恵子 (東海大理)

B 24 炭酸塩堆積物中の微量成分について
寺井 稔 (都立大理)

第1日 10月14日(木)

一般講演 C 会場

[10:00~11:15] 座長 一國 雅己

C 1 草津白根火山1976年活動前後の火山ガス・水
質の変化 小坂丈予, 平林順一 (東工大)
小沢竹二郎 (埼玉大) 野村昭之助, 小坂知
子, 高江州登, 林 保 (上智大)

C 2 草津白根火山新噴出物の成分と噴火様式
小坂丈予, 平林順一 (東工大)
林 保 (上智大)

C 3 群馬県万座川水系各河川における化学成分と
流量との関係
野村昭之助, 小坂知子, 沢 宣昭(上智大)
小坂丈予(東工大)

C 4 Soil air中のHgとCO₂による地球化学的地熱
探査 *古賀昭人, 野田徹郎 (九大温研)

C 5 蒸気系地熱地帯 (大分県野矢地区) における
地球化学的地熱探査
*野田徹郎, 古賀昭人 (九大温研)

[11:15~12:30] 座長 小坂 丈予

C 6 地熱地帯における岩石-水溶液系
鹿園直建 (東大理)

C 7 多成分濃度相関マトリクスを用いる温泉水の
相互関係の解析
木羽敏泰, 寺田喜久雄, *松本 健(金沢大理)

C 8 宮城県中山平温泉水中のヒ素, アンチモン,
水銀含有量
渡辺淳夫, *鈴木幸喜 (東北学院大工)

C 9 水-岩石相互作用の例としてのアルカリ性鉱
泉 一國雅己, 鈴木勸子 (東北大教養)

C 10 沸石の溶解 鈴木孝雄, 大木靖衛
平野富雄 (神奈川温研)

課題討論 「軽元素の安定同位体の地球化学」

[13:30~17:45] コンビナー 松尾 禎士
座長 松尾 禎士

C 11 安定炭素同位体の地球化学 小穴進也(名大理)

C 12 地表水の水素および酸素同位体の挙動
松葉谷 治, 酒井 均 (岡大温研)

C 13 薩摩硫黄島の火山ガスによる岩石の変質過程
における酸素同位体比, 化学組成および鉱物
組成の変化
*日下部 実, 小坂丈予, 吉田 稔(東工大)
内田哲男 (名工大), 松久幸敬 (地 調)

C 14 地質時代の熱水に対する同位体的アプローチ
の限界 梶原良道 (東教大理)

C 15 Ar同位体比にもとづいた地球大気進化モデル
の再検討 浜野洋三 (東大理)
座長 小嶋 稔

C 16 水素-メタン系の同位体平衡定数の温度変化
堀部純男 (東大海洋研), H. Craig (SIO)

C 17 Behavior of sulfur isotopes in aqueous
sulfate-sulfide system at 300°C
F. W. Dickson(スタンフォード大), 酒井 均(岡山大)

C18 中国地方の白亜紀花崗岩にみられる¹⁸O/¹⁶O
比の広域的变化について

本間弘次 (岡山大温研)

C19 同位体組成よりみた南極ドライバレー地域の
歴史的変遷

°中井信之, 水谷義彦, 和田秀樹 (名大理)

第2日 10月15日 (金)
一般講演 A 会場
〔9:30~10:30〕 座長 小山 忠四郎

A14 多摩川水中のクロロホルム抽出物質の分子量
分画成分について

小椋和子, 安孫子春彦 (都立大理)

A15 琵琶湖の溶存有機物

三田村緒佐武 (大教大) 西条八束 (名大水研)

A16 海水中の炭水化物について

平山 宏, 平木敬三, 合田四郎, 西川泰治
(近畿大理工) 重松恒信 (京大化研)

A17 広湾海底泥中の有機物について

山岡到保, 川名吉一郎, 谷本照己 (中国工試)
〔10:30~11:15〕 座長 小倉 紀雄

A18 内湾および汽水湖の底土中における硫酸還元
とメタン生成の関係について

二階堂 要 (愛媛大理)

A19 木崎湖底層における有機物の分解について

松永捷司, 半田暢彦 (名大水研)

A20 土壌及び底質中のアントラセンのGC-ECD分
析法

立川 涼, 河野公栄, 脇本忠明 (愛媛大農)
〔11:15~12:00〕 座長 立川 涼

A21 ECDガスクロマトグラフによる水中のP-
クマル酸の分析法の検討

片瀬隆雄

(神奈川衛生短大), 半谷高久 (都立大理)

A22 水中の炭化水素, 脂肪酸, フェノールカルボ
ン酸の都市水域および小笠原における分布

松本源喜, 石渡良志, 半谷高久 (都立大理)

A23 堆積物におけるステロールの分布と有機物の
起源

西村弥亜, 小山忠四郎 (名大水研)

〔13:00~13:45〕 座長 小椋 和子

A24 初期堆積過程における飽和ステロール (スタ
ノール) / 不飽和ステロール (ステノール)

比の変動

西村弥亜, 小山忠四郎 (名大水研)

A25 湖底堆積物の脂肪酸の起源について

松田ひろみ, 小山忠四郎 (名大水研)

A26 湖底堆積物における脂肪酸組成の鉛直変化
松田ひろみ, 小山忠四郎 (名大水研)

第2日 10月15日 (金)
一般講演 B 会場
〔9:30~10:30〕 座長 増田 彰正

B25 地角斜玄武岩の元素濃度確率分布
川辺岩夫 (名大理)

B26 (Na, Ag)NO₃ 固溶体と水溶液間の微量成分
の分配

高野穆一郎, 綿抜邦彦 (東大教養)

B27 EuAl₂Si₂O₈ の単結晶の合成とその結晶系お
よび赤外線吸収スペクトル

岩崎文嗣 (秋田大鉱), 君塚 昇 (無機材研)

B28 鉱物の分域構造と母液組成の推定
北村雅史, 砂川一郎, 青木謙一郎 (東北大理)

〔10:45~12:00〕 座長 西村 進

B29 チャート中の希土類元素について
清水 洋, 増田彰正 (神戸大理)

B30 人工Olivine 単結晶における不純物分配 (そ
の2) 武居文彦, 小林孝彰, 一國雅己 (東北大)

B31 カンラン石-ザクロ石間のFe²⁺, Mg²⁺の分配
実験

川寄智佑 (京大理) 松井義人 (岡山大温研)

B32 斜方輝石-ザクロ石間のFe²⁺, Mg²⁺の分配実
験

川寄智佑 (京大理) 松井義人 (岡山大温研)

B33 ガーネット・石基間の元素の分配
樋口英雄 (日本分析センター)

小沼直樹 (筑波大理) 佐藤博明 (金沢大理)

〔13:00~13:45〕 座長 小沼 直樹

B34 Johansenite (CaMnSi₂O₆) の合成とその固溶
域

西沢 修 (地 調)

B35 20kbにおける玄武岩の溶融・固化実験による
希土類元素等の挙動の研究

増田彰正, 清水 洋 (神戸大理)

稲永直志 (東理大理)

B36 DLS法による単純なケイ酸塩鉱物のシミュ
レーション

松井義人 (岡山大温研)

第2日 10月15日 (金)
一般講演 C 会場
〔9:30~10:30〕 座長 小穴 進也

C20 同位体比からみた箱根火山の表面水および熱

水の挙動, その1. 表面水

松尾禎士, °日下部 実 (東工大理)

庭野満理子 (東教大)

平野富雄, 大木靖衛 (神奈川温研)

C21 同位体比からみた箱根火山の表面水および熱
水の挙動, その2. 熱水

°松尾禎士, 日下部 実 (東工大理)

庭野満理子 (東教大)

平野富雄, 大木靖衛 (神奈川温研)

C22 さつま硫黄島の同位体地球化学的研究(その3)
上田 晃 (東北大理)

松葉谷 治, 酒井 均 (岡山大温研)

C23 温泉水中の炭素と硫黄の同位体組成について
の一考察

°滝本幹夫, 中井信之 (名大理)

〔10:30~11:15〕 座長 酒井 均

C24 硫黄同位体温度計による熱水性硫化物鉱床の
生成温度について

°清棲保弘, 中井信之 (名大理)

C25 炭酸塩-石墨による炭素同位体温度計と復変
成作用

和田秀樹 (名大理)

C26 Chlorite-muscovite 間のD/H分配について
°鈴置哲郎 (気象庁海洋), 黒田吉益 (信大理)

松尾禎士 (東工大理), 服部 仁 (地 調)

〔11:15~12:00〕 座長 堀部 純男

C27 Zoisite 及び Epidote の重水素含量について
黒田吉益 (信大理), °鈴置哲郎 (気象庁海洋)

松尾禎士 (東工大理)

C28 Serpentine の重水素濃度について
堤 眞, 松葉谷 治, 酒井 均 (岡山大温研)

服部恵子 (東大理)

松葉谷 治, 酒井 均 (岡山大温研)

〔13:00~13:45〕 座長 松葉谷 治

C30 南極みずほ高原の雪の酸素同位体組成
加藤喜久雄 (名大水研)

C31 本邦油田塩水の化学組成および同位体組成に
ついて

°長江亮二, 中井信之 (名大理)

C32 海洋性藍藻 *Trichodesmium* sp. の炭素同位体
比

和田英太郎 (三菱化成生命科学研)

P.L. Parker (テキサス大)

第3日 10月16日 (土)

一般講演 A 会場

〔9:30~10:30〕 座長 石渡 良志

A27 西南日本の堆積岩のビチューメンについて

牧 真一, 永田松三, 西村富子 (地 調)

A28 炭酸塩岩と泥質岩におけるアミノ酸組成の差
異について

寺島美南子 (地 調)

A29 琵琶湖々底堆積物の炭水化物について
半田暢彦 (名大水研)

A30 差スペクトル法による腐植物質中のペクレ
ンキノンの定量法

佐藤 修 (名大水研)

〔10:30~11:15〕 座長 西川 泰治

A31 海水中のヒ素の分析法
加藤正則, 金森 悟 (名大水研)

A32 オートアナライザーを用いる海水中の溶存シ
リカと硝酸塩の分析値について

桑本 融 (京大理)

A33 北太平洋におけるホウ素の分布
金森 悟 (名大水研)

〔11:15~12:00〕 座長 桑本 融

A34 海水中のクロムについて
合田四郎, 山崎秀夫, 西川泰治 (近畿大理工)

重松恒信 (京大化研)

A35 海水中のセレンについて (そのIV)
°平木敬三, 西川泰治 (近畿大理工)

重松恒信 (京大化研)

A36 北太平洋西部海水のセレン(IV), (VI)および
全セレンについて

°鈴木 款, 杉村行勇 (気象研)

三宅泰雄 (地球化学研究協会)

〔13:00~13:45〕 座長 浜村 憲克

A37 北太平洋西部および東部インド洋の海上大気
中のCOおよびアルデヒド含量

°伏見克彦, 川村 清, 杉村行勇 (気象研)

三宅泰雄 (地球化学研究協会)

A38 東海村沿岸水の全セレン含量
°杉村行勇, 鈴木 款 (気象研)

三宅泰雄 (地球化学研究協会)

A39 茨城県東海村沖海中における沿岸流出水の
挙動

杉浦吉雄, °桜井澄子 (気象研)

小川雅仁 (東海大海洋)

〔13:45~14:30〕 座長 鶴巻 道二

A40 愛知県尾張地区における地下水について

- 浜村憲克, 茶谷邦男, 宮田伴一, 大沼章子, 莊加泰司, 加賀美忠明, 森田登喜子, 井上裕正 (愛知衛研)
- A41 濃尾平野の超深層地下水について—その水質とラドン濃度の連続測定結果について
茶谷邦男, 加賀美忠明, 宮田伴一, 大沼章子, 莊加泰司, 森田登喜子, 浜村憲克 (愛知衛研)
- A42 豪雨時における六甲山系鶴甲地域の地下水位, 地下水流出量と化学成分
吉岡竜馬(京大防災研), 沖村 孝(神戸大工) [14:30~15:15] 座長 杉浦 吉雄
- A43 出水時河川の水質変動
古田正次, 大塚治子, 荒川幸夫 (愛知県公害センター)
- A44 全蒸発残留物—化学成分の相関性について・日本河川水質の検討 糸山東一(香川大教育)
- A45 天然水中におけるCr(III)→Cr(VI)反応について °大崎 進(九大理)
大崎知恵, 高島良正(福岡工大) [15:15~16:15] 座長 大崎 進
- A46 野川湧水中の硝酸塩について
小倉紀雄(農工大農)
- A47 マンガンの水酸化物, 酸化物の存在におけるケイ酸の挙動
横山拓史, 樽谷俊和(九大理)
- A48 水酸化マグネシウムによる溶存シリカの吸着
北原重登(福岡教育大)
- A49 湖沼における鉄と錯形成物質の藻類生産に対する意義について
神谷知子, 坂本 充(名大水研)

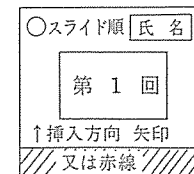
- 第3日 10月16日(土)
一般講演 B 会場
[9:30~10:30] 座長 岩崎 文嗣
- B37 陸性マンガンのノジュールの発生について
°平良初男, 兼島 清(琉球大理工)
北野 康(名大水研)
- B38 陸産マンガンのノジュールのDTA
兼島 清, 平良初男(琉球大理工)
- B39 レビドライト及びベタライトの酸による分解
高松信樹, 今橋正征(東邦大)
神谷 宏(名工大)

- B40 花崗岩からのフッ素の溶出について
松本勇治, 鶴巻道二(大阪市大理)
[10:30~11:15] 座長 鎌田 政明
- B41 庄内川の有機汚染について
佐野方昂, 田中庸史(愛知県公害センター)
- B42 多摩川における有機汚濁物質の収支
市川 新(東大工)
- B43 山形県上山市金山川の重金属汚染
入江敏勝, 出口泰弘, 菅原雄二(山形大理)
[11:15~12:00] 座長 入江 敏勝
- B44 熊本県の河川水質について
植木 肇(熊本県衛生公害研)
- B45 河口水の重金属汚染の生物指標としてのフジツボ
伊藤和男(名古屋市公害研)
- B46 河川および河口部における自浄作用について(その2)
荻田晴久, 荒川幸夫(愛知県公害センター)
[13:00~14:00] 座長 市川 新
- B47 鹿児島湾々奥部海域の水質異常
°鎌田政明, 坂元隼雄(鹿児島大理), 大西富雄(鹿児島大教養), 小坂 丈予, 平林順一(東工大工), 小沢竹二郎(埼玉大工)
- B48 鉱床地域における重金属の流出と流下に関する一所見 椎川 誠, 久保田秀紀(秋田大)
小野鉱二(秋田工高)
- B49 海底土の水銀について
°松永勝彦, 門谷 茂, 前田準一, 米田義昭
深瀬 茂(北大水産)
- B50 土壌の元素分布バックグラウンドに関する研究—1 松田宗明, 本田克久, 小川恒彦
立川 涼(愛媛大農)
[14:00~15:00] 座長 猿橋 勝子
- B51 わが国における⁹⁰Sr, ¹³⁷Cs, および²¹⁰Pbの土壌中蓄積量の相互比較と地域性
°小平 潔(足利工大)
加藤光子, 駒村美佐子(農技研)
- B52 リモートセンシング技術による水質調査法の検討
荒木春樹(東洋航事業)
- B53 交通機関と東京都の物質代謝
半谷高久, 信楽義夫(都立大理)
- B54 地球化学的方法による地震予知研究(2)
脇田 宏, 野津憲治(東大理), 野口正安, (原研), 森岡正名(東大RI)

- 第3日 10月16日(土)
一般講演 C 会場
[9:30~10:15] 座長 本田 雅健
- C33 Allende inclusion I. 希土類元素の分布
°長沢 宏(学習院大理・LSI), D.P. Blanchard(JSC/NASA), J. A. Philpote(GSFC/NASA) 小沼直樹(筑波大理)
- C34 Allende inclusion II. Rb, Sr 同位体および酸素同位体の分布
Borming Jahn(LSI, Univ. Rennes)
°長沢 宏(学習院大理, LSI)
D. P. Blanchard(JSC/NASA)
- C35 Allende inclusion III. 酸素の同位体組成
°小沼直樹(筑波大理) 長沢 宏(学習院大理, LSI), R. N. Clayton, T. K. Mayeda(シカゴ大)
[10:15~11:00] 座長 長沢 宏
- C36 Marchison(C2) 隕石中のカンラン石の表面形態と内部不均質性
小沼直樹, 西田憲正, 小島秀子(筑波大理)
奥寺 智, 小野芳章(日本電子)
- C37 Allende 隕石中のバリウムに富む微粒子について
奥村公男, °田中 剛(地 調)
- C38 コンドライト中のリン酸塩について
海老原 充, 仁藤 修
本田雅健(東大物性研)
[11:00~12:00] 座長 鳥居 鉄也
- C39 昭和基地付近の湖沼水のホウ素分布について
村山治太(横浜国大)
- C40 南極ドライバレー地域の塩湖の地球化学的研究—塩湖の塩成層構造生成年代について
°中谷 周, 西村雅吉(北大水産)
- C41 ベストフォールドオアシスの塩湖の化学的特徴
°中谷 周(北大水産), 鳥居鉄也(千葉工大)
K. R. Kerry(オーストラリア南極局)
- C42 南極エンダービーランド雪氷の地球化学
室住正世, 中村精次, 吉田由利子(室蘭工大)
[13:00~13:45] 座長 室住 正世
- C43 東京上空における大気中の二酸化炭素と一酸化炭素濃度の変化について
池田朔次, 白川英樹
°服部岩和(東工大資源)

- C44 大気中エーロゾルの窒素化合物について
角皆静男, °品川高儀(北大水産)
- C45 降水の紫外吸収スペクトルと化学成分の関係
°関口恭一, 斉藤 譲(群馬県公害センター)
[13:45~14:45] 座長 角皆 静男
- C46 東京における降水中のセレン
°鈴木 款, 杉村行勇(気象研)
三宅泰雄(地球化学研究協会)
- C47 長野市における降水中の化学成分濃度
薩摩林光, 佐々木一敏, 中沢雄平
(長野県衛生公害研)
- C48 環境中に存在する放射性核種の定量(3):
大気中のγ線放射体濃度の時間変化
°古川路明, 小田 康, 西野端夫(名大理)
- C49 木材年輪による降水中トリチウム濃度の再現
田中邦也(学習院大理)
[14:45~15:30] 座長 阪上 正信
- C50 西部北太平洋海水のトリチウム含量
°重原好次, 杉村行勇(気象研)
三宅泰雄(地球化学研究協会)
- C51 インド洋東部海域における¹³⁷Csの分布
三宅泰雄(地球化学研究協会)
°猿橋勝子, 金沢照子, 重原好次(気象研)
- C52 北部北太平洋における²³⁴Th, ²¹⁰Pb, ²¹⁰Poの挙動
南川雅男, 角皆静男(北大水産)
[15:30~16:15] 座長 山県 登
- C53 水圏における²²⁸Ra/²²⁶Ra比(その1)
大久保 隆, 古山和徳(神戸商船大)
阪上正信(金沢大理)
- C54 放射性廃棄物の深海投棄に関する試算
°杉浦吉雄, 猿橋勝子(気象研)
三宅泰雄(地球化学研究協会)
- C55 東海村沖沿岸水のウラン含量およびウラン同位体比
°杉村行勇(気象研)
鈴木利幸(東海大海洋)

スライド作製の注意
35mm版で, 枠には右図のように記入すること。
A4版用紙に4~5mmのレタリングガイドを用いて記入するのが見易い。タイプライターによる表は, ほとんどみえないのでよくない。



2月評議員会報告

と き 1976年2月14日(土) 17時～20時

ところ 学士会館本郷分館

出席者 小穴会長, 本田副会長, 市川, 岡部, 小嶋, 木越, 北野, 倉沢, 猿橋, 杉浦, 杉村, 立川, 鳥居, 増田, 三宅, 室住, 山県各評議員

1. 報告

JSC地球化学宇宙化学研連の委員は, 現在本会5名, 地質1名, 第4部会1名の推薦を受けた。

極地委: 第18次南極観測隊員の推薦, 南極地球化学シンポジウム, DVD Pセミナーの開催等の報告があった。

編集委: GJ Vol. 9 NO. 4 は3月発行予定である。その他ニュース, 行事各委員会の報告があった。

2. 議事

2-1 1976年度討論会: 名古屋大学で10月14日～16日に開催, 13日評議員会, 15日総会懇親会の予定で行なうことをきめた。課題討論, 特別講演の題目, その他作業日程を承認した。今回から名称を1976年度日本地球化学会年会とすることにした。

2-2 学会事務所の移転: 1976年度気象研の筑波移転にともなう本会事務所の移転について, 事務所移転対策委(世話人鳥居評議員)を作り, 学会事務センターへの移行もふくめ検討することにした。

2-3 6月例会: 6月12日(土) 京都において行う。

2-4 入退会: 正会員入会7, 退会4を承認。正会員数795名

奨学生の募集

○大学婦人協会(C. W. A. J.)では, 1976年度奨学生(女性)を募集している。資格は40才以下の4年制大学卒業者で, 外国での勉強を必要とする人。希望者は, 返信用切手50円同封の上9月1日から9月30日の間に, 申請用紙を下記へ申込むこと。
〒152 東京都目黒区自由ヶ丘2-8-5 等松史子

地球内部ダイナミックス(GDP)に関する国際シンポジウムの予告

○International Conference on Geodynamics

Project 主催: 日本学術会議

会期: 1978年3月20日(月)～24日(金)

野外調査 3月25日(土)～27日(月)

場所: 東京都(JSC予定), 野外調査(伊豆箱根)

主要題目: a. 西太平洋および東南アジア地域の地球内部ダイナミックス, b. マグマ発生の物理学および化学など。

国内準備委員会: 委員長, 浅田 敏

○第26回 国際純正応用化学連合化学会(IUPAC) 1977年9月4日～10日まで東京で開かれる上記会議について, 第2サーキュラー(9月発行予定)の入手を希望の場合は, 下記に請求すること。

〒101-91 神田郵便局私書箱56号 IUPAC係 (50円切手貼付返信用定形大形封筒同封)

○"Resource depletion, energy alternative and the quality of life in the year 2000" 国際会議予告

主催: 地球・環境科学振興国際協会及びサウジアラビア・リヤド大学

会期: 1977年3月26日～30日

連絡先: Dr. Musa Qutub

Dept. Geol. Environ. Studies

Northeastern Illinois Univ.

Bryn Mawr at St. Louis

Chicago, Illinois 60625

○"Environmental systems planning, design and control" 国際自動制御学会シンポジウム案内

主催: 日本学術会議

会期: 1977年8月1日～5日

会場: 京都会馆(京都市岡崎)

内容: 汚染質の測定, 環境のモデル化, シミュレーション, デザイン, 評価など。

連絡先: 京都市, 京都大学工学部応用数物科, Prof. Y. Sawaragi

○「火山」20周年特集号 3500円

申込先: 日本火山学会(振替口座東京7-22229)

〒113 東京都文京区弥生, 東大地震研究所内

編集者 山県 登

発行所 日本地球化学会

〒166 東京都杉並区高円寺北4-35-8

気象研究所地球化学研究部内

電話 (03) 337-1111 内線75

振替口座東京8-38679, 三菱銀行高円寺支店

日本地球化学会ニュー

No. 78

1976. IX. 10

本学会業務の一部を日本学会事務センターへ委託する案について

事務所移転対策委員会世話人

財政委員会委員長 鳥居鉄也

日本地球化学会は, 1953年日本地球化学研究会創立以来今日まで, 学会業務の運営を, 関係者の尽力によって, 名古屋大学理学部地球科学教室および気象研究所地球化学研究部において行ってきた。その間, 諸実務は研究室の方々の献身的な奉仕によって処理されてきた。

しかし, その間会員数も当初の2倍, 会誌の発行部数も約3倍となって事務量が激増するとともに, 近い将来, 気象研究所の筑波移転が行われることになったため, 本年2月, 評議員会内に事務所移転対策委を発足させ, その対策を検討してきた。また同時に, 財政委員会では, 昨年の年会以来, 将来の学会運営に関する財政問題の検討を行ってきた。

その結果, 両委員会は学会運営の合理化, 近代化を図ることを目標とし, 会費の徴収, 会誌・ニュース等の発送業務, さらに内外購読者に対する販売拡大を行うため, 日本学会事務センターに本会の事務の一部を委託することが, 本会の発展にとって最良の方法であるとの結論に達した。

同センターは, 東大の近くにあり, 昨年9月現在50余の学会(日本鉱物学会, 日本第四紀学会, 日本古生物学会, 日本保健物理学会など)が学会業務を委託しており, 日本陸水学会も近く委託を予定している。

この案は, 昨年末から数次にわたり, 本会の評議員会などにおいて検討され, 本年6月の評議員会において, 1977年度から学会事務センターに本会事務の一部委託を行う方針が了承された。来る10月の総会に業務委託案の提案説明を行い, 会員諸子のご検討をおねがいしたい。

学会事務センターへ業務委託を行うに当っては, 初年度の原簿作成費, 毎年の発送経費, 住所変更手数料, 新入会員受付経費, 年間の業務事務費等合計

約100万円と, 会誌販売手数料約100万円(売上の40%)の総計約200万円の支出増となる。これによって学会自体で行う業務としては, 一部庶務, 会計関係の事務が残るが, 従来の運営面で必要とした事務量は格段に減少する。

この案の実施に伴う収支を試算すると, 現行会費でこれを行うことは不可能で, 会費の値上げを予定しなければならない。財政委員会としては, 現行会費(年4,000円)を改訂して, 正会員費6,000円とする。学生会員を新設し, 会費4,000円とする。入会金1,000円を徴収するという案を考えている。

学会の近代化と発展のためにこのような方向をとることについては, 会員の総意にかかる問題である。したがって, 来る10月の総会には, 本会の業務の学会事務センターへの委託案と, それに伴う会費等値上案などについて, 十分な討議を行うことを希望したい。

○第5回生命の起源国際会議のお知らせ

と き 1977年4月5日～10日

ところ 京都

主 催 日本学術振興会

会議は, 招待講演, 一般研究発表, シンポジウムを予定し, 一般研究発表の主題には, 宇宙化学, 初期地球の地球化学と分子古生物学, 初期の生化学的, 生物学的進化などの8分野があげられている。またシンポジウムは, 地球大気の進化, 地球外の有機物質, 光学活動の起源など7つのトピックスが予定されている。

論文提出希望切 1976年9月15日(なるべく)

予備登録 なるべく 9月15日まで

講演要旨切 1977年1月31日

サーキュラー等請求連絡先

〒560 豊中市待兼山町1-1

大阪大学教養部生物学教室内

第5回生命の起源国際会議組織委員会事務局

日本学術会議第70回総会は、4月開催の予定を交通ストのため延期し、5月11日から3日間、本会議講堂で開かれた。開会に当たって会長からオブザーバーの琉球大学木崎甲子郎教授、沖縄国際大学安里彦紀教授及び新任の事務官らが紹介された。

(報告) まず前総会以降の経過について会長報告がなされ、承認された。その中で会長は特に「いま社会は大きな転換期にあり、適正な科学・技術政策の策定が強く望まれている。そうした意味で今回も大切な総会である。十分に審議を尽くして欲しい」とあいさつした。ついで、運営審議会付置の各小委員会の報告が行われた。委員会検討小委員会からは、前総会で申し合わされた研究連絡委員会の整備が終り、研究連絡委員会と研究連絡会をあわせて94委員会ができたことが報告された。報告案の策定・報告のアフターケア等小委員会からは、報告のアフターケアについてはまず何よりも関係省庁との協議・連絡ルートの確立が必要であると考えられるので、それに努力するが、その早急な実現が困難な場合には、並行して既報告の「見直し整理」を進めるという基本姿勢が報告された。なお国際環境保全科学会議組織委員会からは、この会議が予想以上の大成功に終わったことが報告され、会員の協力に謝辞が述べられた。なお事後処理の一つとして国際的な継続委員会を設置すること等が報告された。

各部の報告に続いて、常置・特別委員会報告が行われた。研究費委員会からは特定研究課題の申請及び審査方法について、1977年度からは新しい措置をとることが報告された。近年、科学研究費の中に占める特定研究の比重が大きくなっているが、一般基礎研究の軽視につながらないように注意して欲しいとの要望があった。科学者の地位委員会からは婦人研究者の地位についての問題点の摘出と整理が詳細に報告された。国際交流委員会からは「国際会議代表派遣要領(案)」が、今後の検討課題として示された。原子力特別委員会からは、原子力委員会主催のシンポジウムに協力する件についての検討経過が報告された。本委員会としては、学術的なシンポジウムの開催は現在でも有益であると考えているが、原子力委員会側にこれを行政的に利用しようとする疑惑が感じられるので、しばらく連絡調整を見合せ

ざるをえない事情が説明された。最後に中央選挙管理会の報告がなされ第1日を終えた。

(提案審議) 2日目の冒頭に、科学者の地位に関するユネスコ勧告実現の一方途として、科学研究について国の責任を定める「科学研究基本法」の制定を政府に求める勧告が提案され、活発な討議の末、賛成多数で採択された。本勧告は、我が国が適切な科学技術政策を欠いたこともあって、科学の不均衡な発展、技術の無秩序な開発を招き、環境破壊、公害をひき起し、国民生活が大きな悪影響に直面している現状を踏まえて策定されたものである。この勧告には、科学研究基本法に盛り込まれるべき内容案及び科学研究基本法試案を添えており、内容案は前文と10章から構成され、前文に基本法(案)の本質をうたっている。本年2月、内閣総理大臣から科学技術会議に対して行われた諮問第6号「長期的展望にたった総合的科学技術政策の基本について」の答申の作成、審議に当たっては、拙速に陥ることなく、また本会議との意見交換を積極的に行うよう配慮されたいと、会長から科学技術会議に要望することを申合せた。さらに前期までの経験から、今期は早目に活動のとりまとめを行うこととし、そのための小委員会を運営審議会内に設置することを申合せた。なお第6号諮問に対する本会議としての見解も、同委員会で検討することにした。その他選挙規則の一部改正ほか5件を採択した。

(自由討議) 第3日目に自由討議の時間を設け、第6号諮問、科学研究基本法、婦人研究者の地位について、きわめて活発な意見交換を行った。その中で、特に科学研究基本法については、基本法の制定だけではなく、科学者自らも科学研究にもつ責任を自覚すべきものを制定すべきであるとの、本勧告付記事項の早期審議を重視する意見が多くの会員から出された。婦人研究者の問題については、その取り組み方について熱心な討論が行われた。

最後に両オブザーバーからのあいさつがあり日程を終えた。今総会の出席率は第1日目から第3日まで、それぞれ86%、83%、79%であった。

編集者 山 登 発行所 日本地球化学会
〒166 東京都杉並区高円寺北4-35-8
気象研究所地球化学研究部内 (03)337-1111内75
振替東京8-38679、三菱銀行高円寺支店

日本地球化学会ニュース

No. 79

1976. XI. 25

〔お知らせ〕 会費改訂と学会業務の委託

1976年10月15日の総会において、下記のように会費が改訂され、また学会業務の一部を、日本学会事務センターに委託する事に決定したので通知する。

1. 会費：正会員 6,000円(改訂)
：学生・院生または
これに準ずる正会員* 4,000円(新設)
：賛助会員 1口 15,000円(改訂)
2. 1977年度以降の会員の請求、徴収、会誌・ニュース・例会通知の発送は、日本学会事務センターが行なう。
3. 入会申込、退会届、転居・勤務先・身分等の変更届は、日本学会事務センター宛に行なうこと。

*学生・院生またはこれに準ずる正会員は、所属の学部長またはこれと同等と認められる者の在学証明書等を振替用紙通信欄に記入し請求金額を訂正のうえ会費を納入すること。

**会費の納入には、必ず日本学会事務センターの振替用紙を使用すること。なお1977年度分の会費請求は、1976年12月上旬に行なわれる。

1976年度日本地球化学会総会報告

10月15日16:00~17:30名古屋大学教養部講義室で、会員70名出席のもとに行なわれた。議長は、本田雅健会員(東大物性研)が選出された。

1. 会長挨拶
2. 大会委員長挨拶
3. 1975年度事業および決算報告、西村監事の監査結果の報告があり、これを承認した(別掲)
4. 1976年度事業中間および会計中間報告が行なわれた。
5. 1977年度事業計画および予算案を承認した。
6. 会則第5条、第6条、第10条、第11条の一部改訂を承認した。(別掲)
7. 名誉会員の推薦(飯盛里安、石橋雅義、木村健二郎、南英一、菅原健、太秦康光各会員)

を承認した。

1975年度事業報告

1. 会員現況	正会員	賛助会員	名誉会員	計
1974年12月末	781	17	1	799
入会	31	1	0	32
退会	20	1	0	21
1975年12月末	792	17	1	810

2. 委員会等開催数

総 会	1	講演会	1	極 地	3
討 論 会	1	財 政	2	将来計画	1
評議員会	4	行 事	1	会 則	2
例 会	3	編 集	1	選挙管理	2

3. ニュース発行 72,73,74,75号,計20頁1000部
4. 会誌：G.J., Vol.8, NO.4, Vol.9,1~3, 論文20, ノート3, レター2, 237頁, 1,200部
地化, Vol.9, NO.1. 論文2. その他, 71頁 1,000部

5. 会員名簿発行 1975年7月30日

6. 地球化学特別号(環境問題特別号)135頁 発行

7. 1976, 77年度役員選挙

8. 学協会共催等

第12回理工学における同位元素研究発表会(共催)
グローバルスケールにおける古陸水古気候国際研究集会(共催)

9. 評議員会

1975年2月15日(土)	東京学士会館本郷分館
6月28日(土)	静岡日興会館
10月23日(木)	大学セミナーハウス
12月13日(土)	東京学士会館本郷分館

10. 例会

2月15日(土)(東京理化学), 処女水説から希ガスの謎へ, アーカンソー大, 黒田和夫
6月28日(土)(東海大海洋), 海洋の炭酸物質系について, 気象研, 猿橋勝子, 海底土の鉱物資源について, 東海大海洋, 杉山隆二
12月13日(土)(東大理化学), 上部マントルと含水

珪酸塩鉱物，東北大，青木謙一郎，希土類元素の地質学，地調，田中剛。

11. 講演会

4月11日（金）（神田学士）The role of the geochemists in the world food energy crisis, 加州理工科大, H. S. Brown

1975年度決算報告（1975. 1. 1～12. 31）

収入	円	（予算千円）
前年度繰越金	1,228,824	200
正会員会費	2,502,836	2,860
賛助会員会費	240,000	410
購読料	2,230,576	1,550
刊行補助金(74,75)	750,000	300
超過頁代・別刷代	368,384	240
銀行利息	26,770	50
広告代	23,000	100
雑収入	1,750	—

合 計 7,372,140 5,710

支出	円	（予算千円）
会誌印刷費	2,771,978	2,820
ニュース印刷費	265,300	250
郵送料	313,905	800
人件費	480,000	480
名簿印刷費	540,000	500
編集費	80,000	80
討論会補助金	130,000	130
会場費・会議費	156,207	150
委員会活動費	0	20
講師謝礼	20,000	30
事務費	96,760	200
共催分担金等	2,500 (予備費) 200	
銀行手数料	81,605	50
次期繰越金	2,439,885	

合 計 7,372,140 5,710

1977年度事業計画

1. 総会 1回 (東京)
2. 年会 1回 (東京)
3. 例会 3回 講演会 1回
4. 評議員会 4回
5. ニュース 5回
6. 会誌：G.J. Vol. 11. 1～4 250頁 1,400部
地化 Vol. 11. 1～2 100頁 1,000部
7. 1978. 79年度役員選挙

8. 会員名簿発行

9. 事務所移転計画とその推進

10. 学協会との共催：IUPAC, 生命の起源国際会議, 理工学における同位元素研究発表会等
1977年度予算（1977. 1. 1～1977. 12. 31）

収入	千円	支出	千円
会費	5,120	事業費	小計 8,210
刊行物売上	2,890	出版費	5,400
広告料収入	50	行事費	200
刊行補助金	650	名簿印刷費	350
雑収入	50	事務委託費	1,000
前年度繰越金	830	会誌販売委託費	1,060
総計	9,590	管理費	小計 1,100

* 日本学会事務センター	人件費	360
への委託事務	会議費	280
会誌，ニュース，例会	通信費	100
通知等の発送，会員外	旅費交通費	200
への会誌販売，会費の	消耗品費	100
請求，徴収，バックナ	雑費	60
ンバーの販売等	予備費	小計 480
		総計 9,590

会則第5条，第6条，第10条，第11条の一部改訂

第5条 本会に入会を希望する者は，正会員1名の紹介により，所定の入会申込書を本会事務所へ提出する。入退会の決定は評議員会で行なう。入会を許された者は入会金1,000円および1年分の会費を納入しなければならない。会員で……

第6条 会員はつぎの種別に従って会費をその年の3月31日までに納めなければならない。ただし特別の場合にはこれを減免することができる。

正会員 年額 6,000円（正会員のうち学生，院生またはこれに準ずる者に対しては，年額4,000円，ただし，年度ごとに所属の学部長またはこれと同等と認められる者の存学証明書等を添付すること）

賛助会員 年額1口15,000円とし1口以上

第10条 会長，副会長，評議員および監事は，別に定める選出細則により，正会員（在外会員は除く）の中から選ぶ。

第11条 会誌をわけてつぎの2種とし，会員に無料配布する。

- (1) 地球化学（原則として年2回発行）
- (2) Geochemical Journal ……………

日本学術会議第71回総会報告

日本学術会議第71回総会は，秋も深まった1976年10月20日から3日間開催された。開会に当って，新任の田中金次事務局長，大浜忠志総務部長が紹介された。

〔諸報告〕まず前回総会以後の経過報告が越智会長からなされ，了承された。その中で，第70回総会採択の「再び科学研究基本法の制定について（勧告）」に関し，同勧告の処理を軌道にのせるため，科学技術会議連絡部会で努力中であることが報告された。

つづいて，運営審議会付置各小委員会，各部，各常置委員会，各特別委員会及び中央選挙管理会の報告が相次ぎ，熱心な質疑，要望が行われた。研究費委員会報告に対しては，人文・社会・自然科学の調和ある発展という観点から，研究費配分のあり方について多くの意見が出された。また学問・思想の自由委員会報告に関連して，本会議主催講演会の意義を改めて重視する必要があることが強調された。国際学術交流委員会の「日本学術会議主催による学術関係国際会議開催基準（案）」については，特に共同主催の場合の組織体制に関し，危惧が表明された。

〔提案審議〕最初の提案となった「生態学研究所」（仮称）の設置について（勧告）をめぐっては，同研究所の民主的な運営の保障，その目的，任務，特に他分野との関係のあり方等についてさまざまな意見が出され，その結果，今次総会で表明された意見をうけて，さらに原案を練り直し，次回総会に再提出することになった。

「日本学術会議会員の選挙権及び被選挙権停止の申立てに関する再審査の裁決について」及び「当選無効の申立てに関する再審査の裁決について」の再提案は，第10期会員選挙に当って，選挙規則違反があったとして，1有権者が昨年1月行った申立てに対し，同年9月，中央選挙管理会がこれを棄却したこと（原決定）を不服として再審査を請求した事件である。前者については選挙規則の解釈，規則適用の妥当性，情状，選挙制度のあり方等に関し，活発な意見表明がつづいたが，投票の結果，原決定の一部を取消し，被請求人の選挙権，被選挙権を2期にわたって停止する裁決がなされ（賛成75，反対32，保留24），後者は多数の挙手で採択された。

また，「救急医学に関する研究教育制度の確立について（申入れ）」については，その必要性を前提

としながらも，救急医療体制のあり方の問題などについて意見が出され，表現の修正を運営審議会に委ねて採択した。

さらに「冷害凶作の構造究明について（要望）」が提案され採択された。これは東日本の冷害構造の自然科学的，社会科学的究明を推進する措置を講じ，研究の成果を農政に反映させることを政府に対し求めたものである。

以上の外，「環境影響評価制度の立法化される場合の措置について（申合せ）」については，情勢の推移に応じて適切な措置をとることを運営審議会に委ねることとした。また，平和問題研究連絡委員会に分科会を設置し，総合研究連絡会的運用をすることを申合せた。

〔自由討議〕第3日の午後，わずかの時間ではあったが，懸案の諸課題について自由討議を行った。

(1) 日本学術会議の改革構想策定小委員会の「改革構想の大綱（案）」については，本会議の制度的性格，つまり，国家機関でありながら同時に政府に対し独立性を保持することの意義，そこから起こる問題点などに論議が集中した。

(2) 「第10期の活動の取りまとめ」については，第10期における各委員会の審議を基礎としながらも，長期的な科学技術政策の立案により一層寄与できるものにすべきだとの意見が強かった。

(3) 「科学者憲章（仮称）第一次草案」（人間と科学特別委員会）については，科学研究の限界についての考え方，科学者の義務と責任のあり方等，内容上の問題が指摘されたほか，文章表現を平易で説得力のあるものにして欲しいという要望が出された。

(4) 婦人研究者の地位の問題について，科学者の地位委員会から説明があり，制度上の問題と非制度的で社会経済的な問題とを区別して扱うこと，この場合後者については，研究者全体のかかえている問題との関連を軽視すべきでないとの指摘があった。さらに早い機会に勧告草案を作成し，十分な検討の機会を確保して欲しいとの要望もなされた。

閉会に当って，オブザーバーとして出席した我喜屋良一琉球大学教授，照屋寛善沖縄県公害研究所医監を代表して，我喜屋教授が謝辞を述べられた。

総会出席率は，第1日からそれぞれ88%，90%，86%であった。

日本学術会議広報委員会

日本学術会議第11期会員選挙の有権者名簿登録について

1977年11月25日に行なわれる第11期会員選挙について、新規有権者となることを希望する場合、および異動のあった場合は、所定の様式によって日本学術会議中央選挙管理会（東京都港区六本木7-22-34、〒106 電話03-403-6291）へ連絡すること。

1. 前回（第10期、1974年）の選挙の有権者であった者

前回有権者で、日本学術会議中央選挙管理会からカード提出の通知を受けなかった者は、すべて引続き有権者名簿に登録されるので、登録用カードを提出する必要はない。

ただし、前回の登録における所属以外の部又は専門で今回の登録を希望する場合「所属部又は専門変更届」により登録カードを請求すること。

2. 今回の選挙に新有権者となることを希望する者

(1) 大学・研究機関等に所属している場合、所属の大学・研究機関等から一括して登録用カードを請求すること。

(2) 一括請求にもれた場合のみ、個人で中央選挙管理会あてカード用紙を請求すること。

3. 登録用カード用紙の受付期限

第11期会員選挙のための登録用カード受付期限は1977年3月31日である。4月1日以降到着したカードは、次回（第12期）会員選挙の登録用カードとして保管される。

4. 有権者異動届について

有権者は、氏名、住所（住居表示の変更も含む）勤務機関、勤務地、身分等のいずれかに異動があった時、又は博士の学位を取得した場合には、そのつど、すみやかに「有権者異動届」を提出すること。

有権者が死亡した場合は、遺族又は関係者から届け出ること。

5. 諸届の様式

様式第1～第3は「はがき」を用いてもよい。

（様式第1）

登録用カード用紙請求書

(ふりがな)
氏 名 (印)
住 所（郵便番号）

（様式第2）

所属部又は専門変更届

昭和 年 月 日
日本学術会議中央選挙管理会 御中

(現登録の所属) 第 部 学 地方区
(ふりがな) 氏 名 (印)

私は、現在の専門を変更いたしたいので登録用カード用紙を請求します。

（様式第3）

有 権 者 異 動 届

昭和 年 月 日
日本学術会議中央選挙管理会 御中

第 部 学 地方区
(ふりがな) 氏 名 (印)

下記のとおり異動がありましたからお届けします。

事 項	(新)	(旧)
1 氏 名		
2 住 所 (郵便番号)		
3 本 籍		
4 勤務機関 及び職名		
5 勤務地 (郵便番号)		
6 博士の学位	①学位の種類 ③授与年 昭和 年	②授与大学 ④所属学会

第14回理工学における同位元素研究発表会

会期：1977年6月29日(木)～7月1日(金)

会場：国立教育会館、本会共催

発表申込〆切：1977年2月28日(月)必着

申込書請求元

〒113 東京都文京区本駒込2-28-45

日本アイソトープ協会内 理工学における同位元素研究発表会運営委員会 (03) 946-7111

小山忠四郎会員、地球化学研究協会学術賞（三宅賞）を受賞

1976年度地球化学研究協会学術賞（三宅賞）は、小山忠四郎会員の「湖沼における有機物の地球化学的研究」に受賞がきまった。受賞式は1976年12月8日東京霞ヶ関ビル33階東海大学校友会館で行なわれる。

編集者 山 県 登 発行所 日本地球化学会
〒166 東京都杉並区高円寺北4-35-8
気象研究所地球化学研究部内(03)337-1111内75
振替東京8-38679、三菱銀行高円寺支店、北海道拓殖銀行荻窪支店